



『宮島廣島名所図繪
[宮島廣島名所交通図繪]』
(昭和3 (1928) 年11月30日)
廣島瓦斯電軌株式会社発行
日本ライン蘇江の観光社 印刷



大正・昭和の鳥瞰図繪

連載—第10回

吉田初三郎の世界

宮島廣島名所図繪

宮島廣島名所交通図繪

文・藤本一美

text by Kazumi FUJIMOTO

市民に「ひろでん」の愛称で親しまれている広島電鉄の前身は、大正元年の広島電気軌道の市内軌道線開業に始まる。大正六年には広島瓦斯と合併、広島瓦斯電軌になった。大正十一年に宮島線の一部となる己斐(現広島西広島)―草津間の鉄道線が開通。以後、十三年に草津―廿日市間、十四年に廿日市―地御前間、十五年に地御前―新宮島(現広島阿品付近)間が延伸。続く昭和六年二月の新宮島―電車宮島(現広島宮島口)間の開業により、宮島線が全通するのだが、この作品は、なぜか全通前の昭和三年に、呉鎮守府要塞司令部認可済印のもとに刊行されていて、手回しの良さを感じるほどだ。

昭和十七年、広島瓦斯電軌から運輸事業を分離して、広島電鉄が設立。いまや広島市内と玄関口の宮島までの海沿いを網羅する広島電鉄は、軌道線と鉄道線を合わせると、

藤本一美

首都大学東京(都立大学)非常勤講師。日本国際地図学会常任委員。鳥瞰図・展望図資料室兼山岳情報資料室主宰。近・現代の鳥瞰図絵師の作品収集と研究に精力的に取り組んでいる。著書に「旅と風景と地図の科学II」(私家版2006年)、最新刊に「展望の山50選 関東編」(東京新聞出版局)がある。



広島電鉄株式会社

Hiroshima Electric Railway Co., Ltd.

創立：明治43（1910）年6月18日
 設立：昭和17（1942）年4月10日
 本社：広島県広島市中区東千田町2丁目9番29号



LRT化で人にやさしい都市交通を整備。

広島市内を走る軌道の市内線と宮島口までを結ぶ宮島線の鉄道・軌道事業、バス事業で、広島市民の足を支える“ひろでん”。平成11年よりドイツ製の低床車両を導入。16年からは国産初の完全超低床電車「グリーンムーバーマックス」を開発・導入し、電停の拡張やバリアフリー化を進めるなど、高齢化社会にふさわしい公共交通機関を目指し、路面電車のLRT化を積極的に推進している。不動産事業、ホテル事業などからなるグループのスローガンは「地域社会に奉仕する広電グループ」。



三十五・二kmの営業キロとなり、市内をめぐる路面電車の利用者数は日本一を誇る。

本図をよく見ると、昭和二十年八月の被爆で壊滅した広島市の中心街、県庁舎、市庁舎や広島城跡などの姿があり、復元されたかのような錯覚を覚える。

他にも、太田川とその分流が形成した三角州（デルタ）や埋立地に立地した町並みを瀬戸内海側の視点でクロースアップし、バックグラウンドの日本三景の一つ、安芸の宮島（厳島とも、『厳島新案内』大正四年刊行作品あり）入口まで、赤い鉄道路線を意識的に一直線に延ばし、宮島は広島と対置させて大きく強調した技法が見られる。

もちろん、春のピンクの桜と秋の紅葉が混在したあざやかな彩色、海水浴場、漁船・帆掛け船・汽船が航行し、富士山、日本ライン、朝鮮まで描出されていて、「遊び心」は旺盛である。

なお、この作品が「電車開業80周年記念 一日乗車乗船券」や『広島電鉄開業80創立50年史』（ともに平成四年刊行）カバーに、複製収載（広島市公文書館所蔵品を利用）されているのは嬉しい限りである。二年後の百周年企画も期待したい。